

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|--|--|
| 事業所番号 | 0471400226 | | |
| 法人名 | 有限会社庄司ケアサポート | | |
| 事業所名 | グループホーム日和 | | |
| 所在地 | 宮城県東松島市赤井字台94 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 25年 6月25日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム日和も開設11年目を迎えるようとしています、それに伴い入居者様の年数年齢も進み漠然とした精神的な不安感、身体機能低下、そして看取りの状況となっていられる方も多く、日和が力を入れ続けていることは何時でも本人は勿論、家族様掛かり付け医と協議を行い、その状況に合わせ個人が一人の人として最後まで笑顔で楽しく、少しでも皆様と過ごす時間を大切にしている事です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成 25年 7月10日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木のぬくもりとアットホームな暖かさがあふれるこじんまりとしたホームである。地域と家族との関係は良好で運営推進会議や防災訓練に毎回多数の参加がある。ホームの夏祭りは地域の行事の一つとなっている。花見等外出にはほとんどの家族の参加がある。「AED」を設置して、町内でも役立ててほしいと講習会を開催している。町内会より「設置しています」との看板を頂いた。職員は「ベッドに寝るのは夜だけ。行事が多く地域と家族と一緒に楽しんでいるのがとても好い所」と話す。管理者は「介護は楽しく」「入居者の家族も家族と思って」と指導している。「被災の規模は多方面に大きかった。何とか乗り越えてきました。」と前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム 日和**)「ユニット名

」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者、スタッフで日々のミーティング会話の中に理念の大切さを話し合っている | 「優しさ、気配り、思いやり」を事業所理念とし、ミーティング時に確認している。介護にとって何より大切な事と理解し、毎年、社長とスタッフ全員で話し合い継続している。入居者の高齢化に伴い運営理念は一部見直しをした。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 開設10年目を迎え益々地域とのつながりが濃くなり常に交流させて頂いている。 | 町内会に加入し、地域の夏祭り、敬老会等行事には全員で参加する。ホームでの夏祭りは地域、家族、スタッフが一体となって開催し、地域の行事の一つとなっている。ボランティア活動を一緒に楽しむ等交流は良好である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 高齢者世帯が多くなり地区の民生委員、区長様方と情報交換行い継続的に見守り等行って居る。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 毎回の会議には市町村住民代表八割方の家族の参加頂き様々な意見交換させて頂きサービスの向上に活かしている。 | 奇数月に集会所で開催している。事業所、市からの状況報告と共にメンバーからの意見、要望を受け双方向的な話し合いをしている。ホームに「AED」を設置して、町内でも役立ててほしいと話し、講習会を開催した。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 日頃から市町村も来所され又毎回の会議にも必ず参加頂いて居る。 | 申請、更新、変更時また生活保護関係の書類報告等に担当者に相談、助言を頂いている。管理者は地域からの相談事を話し合い連携を密にしている。震災の時は被災者や地域住民の家族を受け入れた。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 入居者様の行動を第一に考え開設当初より施錠する事無く天候の良好時には庭で過ごすことも多くある。 | 職員は研修や朝のミーティング時の話し合いにより、身体拘束の内容と弊害を理解し、日々のケアに努めている。徘徊のある入居者にそっと寄り添って、どこまでも一緒に歩いて行く事を繰り返していきうち徘徊が無くなった事実がある。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 入浴・清拭、を毎日行い、身体の確認行いつつスタッフの体調やストレスの状況を日々言葉に出せるような雰囲気作りに努めて居る。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度の申請をする入居者様がいらして改めて確認をスタッフ全員で行った。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 理解、納得するまで説明を行い署名捺印頂いて居る。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 毎月の集金をホームに来て頂き面会回数等の工夫行いつつ会議等でも家族の意見に耳を傾け対応している。 | 家族から「何かさせてほしい」と言われ、入居者の繕い物やウエスを作って頂いている。管理者は「家族も家族」との思いから家族との会話を多く持ち交流を大切にしている。お便り「日和」は遠方の家族に喜ばれている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のミーティング(会食時)社長・管理者スタッフ全員参加行い日頃の考え等を話し合い反映させている。 | 管理者は、職員の顔色や様子がおかしいと思った時に随時声をかけるなどして、悩みの相談にのっている。パッドの取り替え方、入浴の仕方等日々の関わりから身に着けた介護の方法を取り入れている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々が目標を持ち次々達成介護福祉士となり今年はケアマネに挑戦、目標設定、準備行っている又免許取得者には手当の支給等行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々にあった声がけ行い時期を見て研修等も働きかけている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 震災後他県よりボラ(美容師)来所他事業所にも声掛交流又市町村の講演会、勉強会等にも参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 何をすることもゆっくりと時間を掛受容傾聴する事で安心して頂く様努めて居る。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前の会話を何度か繰り返しゆっくり関係を築いていくよう心掛けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 申し込み決定段階から本人家族の必要性を話し合い支援行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者本人からの感謝の言葉敬い等介護者で良かったと思う瞬間が共に生活させて頂き同士の関係を良くしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 三位一体の気持ちを本人、家族、介護者が自覚し共に支え合っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今までの交流を大切に入居者様の友達又は親戚等常に訪問出来るよう支援に努めている。 | 昔の友人が訪ねて来たり、兄弟と一緒に出掛けて行ったり、近くの直売所に行き顔見知りとお茶飲みをしている。ホームの前を通る知人を呼びとめ招き入れる等、継続的な交流ができるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ひとり一人が孤立しないよう日々席替え等行い工夫支援に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後も家族様来所され、何時でも何かあれば協力すると声掛くださる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の思いや暮らしを第一に確認し家族本人本意を前提としケアの立案支援している。 | 日々の関わりの中から、情報シートや家族の話等で把握に努めている。車イスで動こうとする仕草はトイレのサイン、夕方にソワソワするのは家に帰りたい思いであり、側で話を聞いていると落ち着く等対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 震災後の付き合い状況が余りにも変化しすぎ出来る限り生活の中に張り合いが出来るよう工夫している | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人を大切にその方に相応しい暮らし過ごし方を日々求め現状の把握に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月本人家族より意向要望等聞き三ヶ月に一度計画作成に盛り込み確認サイン捺印頂いている | 「アセスメントのための情報収集シート128」を活用し、スタッフ全員で話し合う月1回のモニタリングを基に3ヶ月毎に見直しし、計画書を作成している。入居者が高齢化してきた現状に「寝たきりにさせないケア」に取り組んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々変化に敏感になり毎日の申し送り時個別に工夫情報を共有しながら支援している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人ならず家族の状況に合わせて柔軟に対応している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 今年四月よりAEDを設置した所地域の方より看板設置の協力を頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人の体調状態により通院往診頂き寒季時はほぼ往診対応にて対応不調訴え特に無かった。 | 全員が協力医をかかりつけ医とし、家族と職員が通院の為の記録ノートを持参して受診している。緊急時は往診して頂ける体制である。結果は申し送りで伝達し、受診ノートに記載し、職員は確認の印を押している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調不良の早期発見行い係り付け医からの指示の基ホームでの点滴等も行い対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には出来る限り早期退院出来るよう病院関係者と情報交換行い対応している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や末期時家族と話し合い出来る限り思いを優先し対応している。 | 「重度化における対応(看取り)の指針と同意書」を成文化し、契約時に本人、家族に説明している。看取りの経験はある。今後も家族と段階的に安心と納得が得られるよう話し合い支援していく方向である。職員のメンタルケアに取り組んで頂くことを期待したい。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変事故にはマニュアルを常備し全スタッフで確認し合っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害対策は地域と協力し合い年二回の訓練にも消防署員立ち合いの基協力体制を築いている。 | 年2回(夜間想定含む)実施している。近隣の住民、家族の参加があり、入居者の避難誘導をしている。各部屋にスプリンクラーを設置している。夜勤者はヘッドライトを付けて見回りするよう、日頃も訓練に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居時より名前からどのようにお呼びしたら良いか伺い本人とゆっくり話をし対応している。 | 動きや視線から、さりげなく近寄り耳元でトイレ誘導の声かけをしている。トイレにバスタオルを用意し、露出部分を少なくする配慮をしている。部屋に入る時は、ノックをする、本人の了解を得る等の対応をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中での希望・思いの把握を感じ取り出来るだけ早く解決できるよう対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日一日をどのように過ごしたいか希望を大切に過ごせるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 月一かいペースで化粧し近くのイオンに行き自ら試着行い洋服ならず装飾品も時には購入家族様も喜んでいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一日30品目を目標に調理しと相談しながら毎食手作りで提供している又年数長く入居されてる方も多くADL低下も著しく当初台所に一緒に立って作業行が困難傾向。 | 献立は一人ひとりのデータを見ながら調理師と管理者が主治医に味付け、カロリーを相談して作っている。職員も同じテーブルを囲み、会話しながら楽しく食べている。入居者はテーブル拭きや食器拭き等できる事をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 本人の身体状況を一番に掛かり付け医と密に情報交換行い対応又水分も制限者以外は一日1、5リットル目標に対応支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 三食後の歯磨きは必ず施行し磨き直し確認をしている又口腔洗浄液、口腔ウエット等の対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 失敗する事恐れず本人の自立度、排泄パターンも確認行い声掛介助支援している。 | 排泄チェック表により、トイレ誘導の声がけをして、トイレでの排泄を大切にしている。自立している方2人、他は布パンツに尿探りパッドを使用して自立排泄に向けた支援をしている。夜間はパッド交換等個別に支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便の送り(話し合い)を毎日繰り返す事で個々の情報が明確となり予防出来ている、又下剤・摘便等服用、施行している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 本人の希望を第一に優先し毎日入浴される方、拒否有る方も時間を掛、何度か声がけ行い入浴していただく。 | 入浴当番が声がけし、毎日入浴をしている。7名が1対1、2名が2人対応で入浴している。拒否のある時は拒否の理由を見つけ工夫をしている。入居者はスタッフを一人占めできる機会なので楽しみにしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一日の過ごし方を工夫する事で、眠剤服用する方一人も無く昼夜逆転もなく休まれている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬は年齢体調状況により今までの量が過剰に効き過ぎ見受けられる時はドクターと相談し指示を頂き調整対応している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者自らスタッフに声を掛けて下さり手伝って頂いたり、本人の思いを会話の中から聞き出し、出来る限りストレス無く心地よく過ごせるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 登米にある平筒沼で、お花見・芋煮会には、サロンバスを借り又乗り込めない方は別の車を出し毎回全員参加を目標とし、家族の方も毎年参加下さり楽しまれていた。 | 花見や芋煮会等季節を感じる外出は全員で出かけている。誕生会時は本人の希望に合わせて、寿司屋に行く等外食を楽しむ支援をしている。日常的にはイオンモールへ買い物や散歩、広い庭に出て畑の水やり、日向ぼっこ、お茶のみ等積極的に戸外に出ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 外出時に自ら支払いの促し支援している又お金を所持している方もいらっしゃる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 書ける方は手紙のやり取りしたり希望時には電話等行い支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 部屋には室温計遮光カーテン毎日必ず窓を開け掃除、見やすい場所に本人と相談行い時計の場所やカレンダー等の設置行い工夫対応している。 | 木のぬくもりのある横長に造られた建物で、中央に玄関、ホールがある。天井が高く天窓から自然の光が入り、明るく、空気に澱みがなく温湿度は適切である。壁には社長が描いた趣味の絵画や手作りの作品が飾られ、七夕飾りは季節を感じる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 古くから入居されている方は新たな入居者様に優しく声掛促し下さり、時にはこそこそと、その方に聞こえない程度に何かを話して互いに頷きあっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に心地よい場所作りと馴染みの家具、ぬいぐるみ、写真等持ち込み工夫し、お位牌を持ち込む方もいらっしゃる。 | 居室入口には職員手作りの大きく分かりやすい表札が掲げられている。馴染みの家具が持ち込まれ、テレビ等が上手に配置され、備え付け収納部分が広いので全体にすっきりしたその人らしい部屋である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内はほとんどバリアフリーでトイレは目印とし絵を描いたりお風呂場にはのれん等で工夫行っている。 | | |